

**発掘!!**

**企画展**

# 出土遺物からのメッセージ

旧石器時代～江戸時代

**9/17 (日) 14:00～**  
**展示説明会・スライド会**

**宮代町郷土資料館**

**南埼玉郡宮代町字西原289 0480-34-8882**

# 開催に あたって

宮代町教育委員会では昭和49年以降41遺跡77ヶ所で発掘調査等を行ってきました。その結果、埼玉県で唯一の4世紀代の鍛冶工場の跡（山崎山遺跡）や埼玉県東部地区で初めて発見された細石器の製作場（逆井遺跡・金原遺跡）、縄文時代早期撚糸文期の集落（前原遺跡）の跡など全県的に注目される遺跡が発見されています。その他にも、地蔵院遺跡では縄文時代早期条痕文期の集落跡や戦国時代の武将の館跡、金原遺跡では縄文時代後期称名寺期の集落跡、道仏遺跡では古墳時代後期の大集落、姫宮神社遺跡では宮代町唯一の古墳や埴輪、中寺遺跡では戦国時代の武将鈴木雅楽助の屋敷地と推定される建物跡、伝承旗本服部氏屋敷跡では陣屋を区画する堀などが発見され、宮代町の歴史が次第に明らかとなってきました。

宮代町郷土資料館では、これら貴重な発掘調査の成果を、町民を始めとする考古学ファンの方々にお知らせいたしたく企画展「発掘!! 出土遺物からのメッセージ」を開催することとなりました。本展示で発掘調査や宮代の歴史を理解していただければ幸に存じます。

## 凡例

- 1 本書は平成12年8月23日から10月29日にかけて開催する宮代町郷土資料館企画展「発掘!! 出土遺物からのメッセージ」の展示解説図録です。
- 2 本書並びに展示した写真は、当館学芸員河井伸一が撮影しました。
- 3 本展示の企画構成並びに本書の執筆及び編集は河井伸一・青池紀子が行い、模型の製作は松本摩美が担当しました。なお、展示は資料館職員等が協力し行いました。
- 4 資料提供・協力者一覧（敬称略）  
埼玉県埋蔵文化財調査事業団、宮代町遺跡調査会、木戸春夫

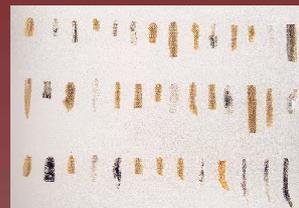
# 旧石器・縄文時代の宮代町

宮代町に人々の生活の状況が初めて確認できるのは約1万7千年前のことです。前原遺跡や金原遺跡などでナイフ形石器と呼ばれる槍の先に付ける石器を加工した製作場が発見されています。その後、1万3千年前になると逆井遺跡や金原遺跡で細石器と呼ばれる柄にはめ込む石器を作り出した製作場も見つかっています。金原遺跡では尖頭器を製作した場所や焼けた石がまとまって出土する礫群も多数検出されています。旧石器時代、金原遺跡や前原遺跡は非常に住みやすい地域だったのでしょう。

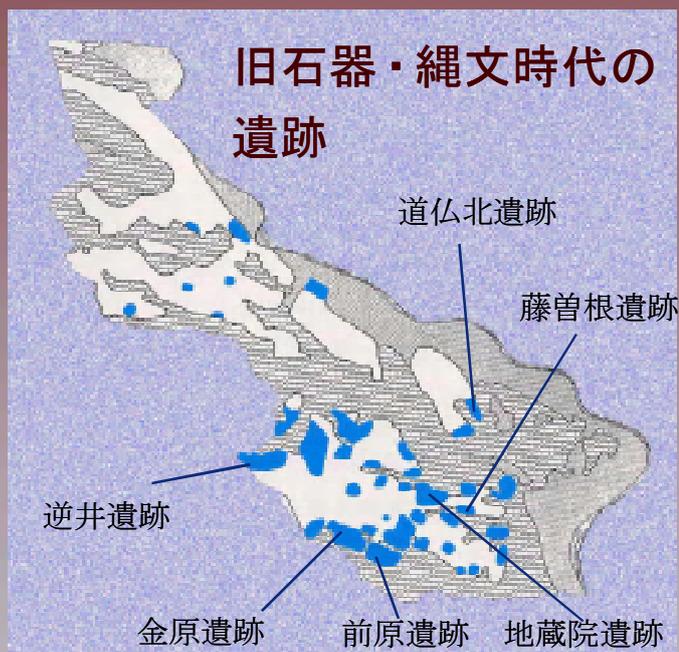
縄文時代早期前半撚糸文期（約8,000年前）になると前原遺跡で住居跡がまとまって発掘され、宮代町で初めて縄文ムラが形成されました。早期後半条痕文期（約7,000年前）では地蔵院遺跡で住居跡や野外で煮炊きを行った炉穴が多数発掘されています。この時期から前期（約5,000年前）にかけて、地球の温暖化現象により海の水位が上がり現在の宮代町の水田部はほとんど海であったようです。道仏北遺跡や地蔵院遺跡でこの頃の住居跡が確認されています。宮代町で最も遺跡が多い時期は縄文時代後期（約3,500年前）です。春日部市では縄文時代中期の遺跡が多く後期が少ないことから春日部方面から宮代へ移り住んだのでしょうか。



逆井遺跡出土細石核



逆井遺跡出土細石刃



藤曽根遺跡発掘調査の風景（第3号住居）



道仏北遺跡出土土器



藤曽根遺跡出土土器

# 旧石器・縄文 時代の遺跡

## 前原遺跡

前原遺跡は、町営前原グランド建設に伴う事前の発掘調査として昭和55年度から56年度にかけて実施されました。現在の前原中学校付近に所在する遺跡です。旧石器時代の約17,000年前の石器製作場が発掘され、確認できる宮代町で最古の人々の暮らしが明らかとなっています。その後、約14,000年前にも石器製作場が、約12,000年前の縄文時代草創期でも住居跡等は確認されていませんが、埼玉県東部地区で唯一の微隆起線文土器と表裏縄文土器が出土しています。約8,000年前の縄文時代早期前半撚糸文期には6軒の住居跡からなる集落が営まれていました。住居跡は遺跡の南側縁辺に集中しています。この時期の住居跡は、春日部坊荒句遺跡でも発掘されていますので、内牧や前原地区はこの時代非常に住みやすい場所であったと推定されます。

## 逆井遺跡

逆井遺跡は下野田逆井ほ場整備事業に伴う事前の発掘調査として平成6年度から7年度にかけて実施されました。宮代町の西部、白岡町大字爪田谷との町域境に所在します。調査によって旧石器時代後期（約13,000年前）の細石器を作り出した製作場跡が埼玉葛地域で初めて発見されました。この遺構からは細石刃核が7点、細石刃が46点まとめて出土しています。約7,500年前の縄文時代早期中葉沈線文期には竪穴状遺構（住居跡）、約7,000年前の早期後半条痕文期の屋外炉、約3,500年前の後期前半堀之内期には住居跡や土器捨て穴などが発掘されています。



縄文早期前葉の住居跡



発掘調査の風景（石器ブロック）



8号住居出土  
称名寺式土器



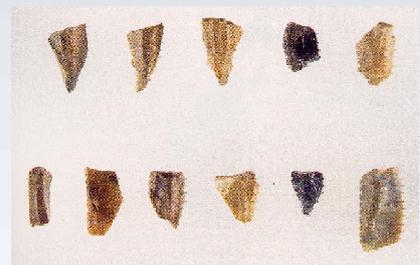
浮島式土器



炉穴出土条痕文土器



8号住居出土  
称名寺式土器



1号ブロック出土細石核

## 金原遺跡

金原遺跡は（仮称）金原運動公園建設に伴う事前の発掘調査として平成8年から11年度にかけて実施されました。立地は前原遺跡の西側に位置し島状の台地上に所在します。

調査によって旧石器時代後期約17,000年前と約14,000年前の槍の先に付けられたナイフ形石器の製作場の跡が多数検出されています。また、約13,000年前には細石刃を作り出したと推定される製作場の跡も2箇所で見つかっています。

縄文時代の後期初頭称名寺期（約3,500年前）には柄鏡形住居跡を中心とした縄文ムラがつくられていました。西側の谷を囲むように半弧状に住居跡があります。中央付近には集会所的な役割を持った方形柱穴列が検出されています。宮代町で縄文ムラ全体が発掘された初めての遺跡です。

## 地蔵院遺跡

地蔵院遺跡は百間小学校やふれ愛センター、郷土資料館等の建設に伴う事前の発掘調査として昭和61年度、昭和63年度、平成元年度、平成3年度に計6地点で実施されています。

発掘調査の結果、縄文時代早期後半条痕文期（約7,000年前）には住居跡や屋外炉を中心とした縄文ムラが広がっていたようです。海辺に隣接していたためか、土器片錘と呼ばれる投網用の錘も数多く見つかっています。

また、前期後半諸磯式期（約5,000年前）にも多くの住居跡が見つかっています。ちなみに資料館前にある縄文住居はこの時代のもを復元しました。中期後半加曾利E式期（約4,000年前）の住居跡も4軒検出されており、縄文人にとって、非常に住みやすい場所であったことが推定されます。



1号石器ブロック（旧石器時代）



7号住居跡（称名寺式期）



9号住居跡（条痕文期）



有孔球状土製品



リング状土製品



浮き



334号土坑出土  
称名寺式土器



3号埋甕（金原前遺跡）  
勝坂式土器



加曾利E式土器



百間小学校内出土土坑



曾利式土器

航空写真（昭和63年度）

# 縄文土器の 変遷

縄文人は粘土をこね、焼くことによって素焼きの土器を作り出しました。それは、およそ1万2千年前から始まり、縄・貝・竹・棒をつかって様々な模様や形をつくりました。縄文土器の底の周辺部分は加熱で変色し、内側の部分は食べ物の焦げカスが黒く付着することから、煮たり焼いたりする料理用のための土器と考えられます。

ところが、6,000年前からは浅い土器や台のついた土器が出現し、盛り付けるためのものや液体を入れる為の壺なども作られるようになりました。

そして、4,000年前になると、料理用以外にもランプに使われていたと思われるトッテのついた土器や亡くなった赤ちゃんを甕に入れ、竪穴住居の出入り口部分の床面に沈めた埋甕など、様々な用途にも使われていたようです。土器の様子は装飾のため以外に特別な意味を表現する模様も描かれるようになります。

その後、縄文時代後期の土器は薄くなり、注口土器など変わった土器が加えられるようになります。

縄文時代も終わりに近づく頃になると、粗さのある土器から精製された土器が多くつくられたようです。また、多種多様な形と独特な文様も描かれるようになり、弥生時代への基盤を定着させました。

宮代町は東関東を中心とする浮島式土器・阿玉台式土器、西関東を中心とする諸磯式土器・勝坂式土器、さらに長野県や山梨県を中心とする曾利式土器が発見されています。これは、それぞれの地域が宮代町を接点とし、土器を通して人々の交流があったと思われます。



捻糸文土器 (約 8,000 年前)



押型文土器 (約 7,500 年前)



条痕文土器 (約 7,000 年前)



条痕文土器 (約 7,000 年前)



諸磯式土器 (約 5,000 年前)



曾利式土器 (約 4,000 年前)



加曾利E式土器 (約 4,000 年前)



称名寺式土器  
(約 3,500 年前)



称名寺式土器 (約 3,500 年前)



称名寺式土器  
(約 3,500 年前)



堀之内I式土器  
(約 3,300 年前)



堀之内II式土器  
(約 3,300 年前)



加曾利B式土器  
(約 3,000 年前)

# 古墳時代の 宮代町

宮代町では弥生時代の遺跡は見つかりませんが、古墳時代前期（約1,650年前）になると山崎山遺跡や地藏院遺跡で集落が確認されています。特に山崎山遺跡では住居跡だけでなく、埼玉県で最古の鍛冶工房が1軒発掘されました。

古墳時代後期（約1,500～1,300年前）になると、山崎遺跡や道仏遺跡で住居跡が発掘されています。特に、道仏遺跡では、大集落が営まれたようで、お祭りに使用された滑石製のミニチュア石製品である剣形品や有孔円盤が多数出土しています。

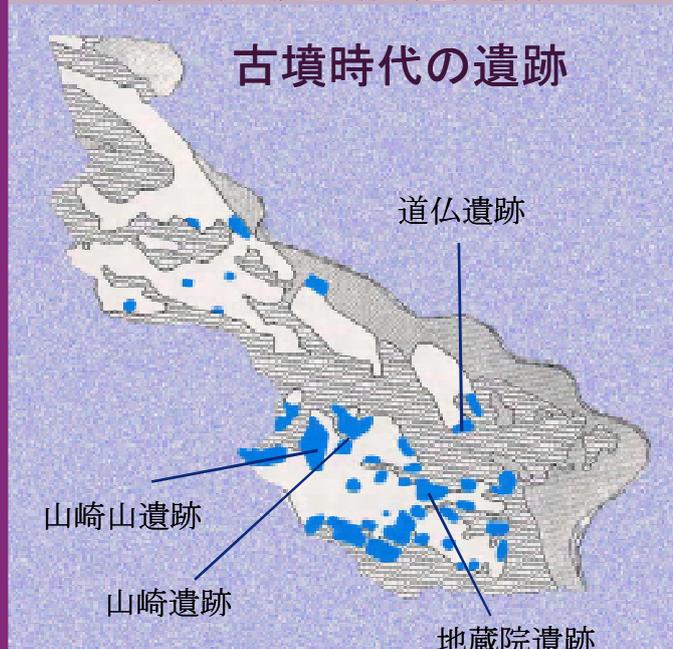
道仏遺跡から谷を隔てた南東側には宮代町で唯一確認されている姫宮神社古墳群があります。出土したハニワ片は約1,500～1,450年前ですので、もしかしたら、道仏遺跡にあったムラの首長やその一族の墓が姫宮神社古墳群である可能性もあります。



道仏遺跡出土剣形品

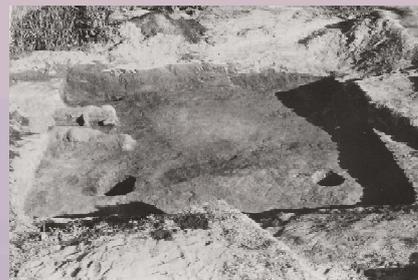


住居跡の調査風景（道仏遺跡）



## 古墳時代の遺跡

道仏遺跡  
山崎山遺跡  
山崎遺跡  
地藏院遺跡



古墳時代後期住居跡（山崎遺跡）



道仏遺跡・姫宮神社古墳推定模型

# 古墳時代の遺跡

## 山崎山遺跡

山崎山遺跡は民間開発等に伴う事前の発掘調査として昭和57・63年度、平成2・3・6年度に実施されました。平成2年度の調査では4世紀後半の埼玉県内最古の鍛冶工房跡や大型の竪穴住居跡なども発掘されています。大型の竪穴住居からは管玉と呼ばれる古墳などに副葬されることも多い玉なども見つかっており、権力者がいたことを創造させます。鍛冶工房では、鉄挺と呼ばれる材料から鉄製品の形を作り出した大鍛冶の跡とそれを鍛錬させた小鍛冶の跡がまとめて出土しています。

## 道仏遺跡

道仏遺跡の発掘調査は平成9年度に実施されました。調査の結果、古墳時代後期（6世紀中頃）の重複する住居跡7軒、土坑1基が検出されました。剣形品や有孔円盤などの石製模造品が多数出土したことから、この遺跡の重要性がうかがわれます。住居跡の1つは焼失住居跡で茅材や建築部材も多数検出されました。多くの土玉、土錘、紡錘車等の土製品、石製品も多数出土しています。住居跡の多くはいずれも北東側に竈があると推定されます。

## 姫宮神社古墳

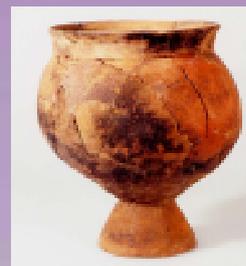
姫宮神社古墳は個人住宅建設に伴う事前の試掘調査として平成7年度と平成11年度に実施されました。調査の結果、ハニワ片等が大量に出土し姫宮神社周辺だけでなく広く古墳が広がっていたことが確認されました。試掘調査で出土したハニワは約1,500～1,450年前のものだと推定されます。また、平成11年度には、姫宮神社境内で測量調査を実施しました。現状で古墳が確認されているのは本殿右手奥にある八幡神社のみでしたが、本殿や集会所付近も古墳である可能性が高まり、小さな古墳が多数存在する古墳群であったと推定されます。



高坏 (3号住居)



管玉



台付甕 (8号土坑)



大型住居 (5号住居)



鍛冶工房



土師器出土状況



平成2年度調査区全景



紡錘車出土状況



3号住居



有孔円盤



土師器甕



円筒ハニワ



姫宮神社古墳

## 中近世の 宮代町

鎌倉時代になると鎌倉街道と呼ばれる鎌倉へ通じる道が宮代町を通っていました。街道沿いの須賀郷や久米原郷は市場も立つほどの賑わいがあったようです。発掘調査が実施されていないため詳細は不明ですが、百間地区の西光院周辺と鎌倉街道沿いの須賀や久米原は町場や宿が形成されていたと推定されます。

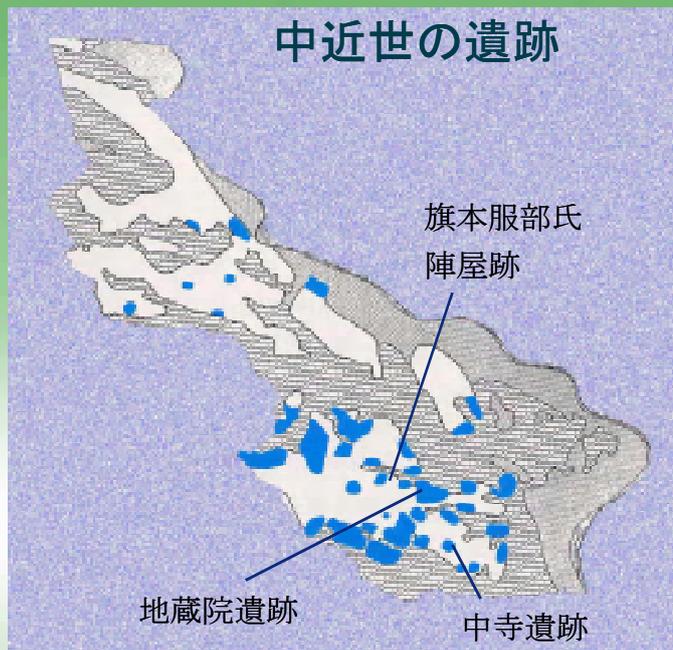
室町時代後期（約500年前）になると地蔵院遺跡で中世の遺跡が発掘されています。堀や竪穴状遺構（工房など）の他、中国産の青磁や瀬戸産の陶器なども出土したことから、武士の館跡と推定されます。

戦国時代には百間東の武将鈴木雅楽助が岩付城などで活躍する様子が古文書から知ることができます。雅楽助の館跡と考えられる中寺遺跡では、井戸や掘立柱建物跡なども多数出土しました。

安土桃山時代から江戸時代初頭（約400年前）になると百間3千石の領主服部権太夫の陣屋が西原地区に造られました。資料館周辺の地蔵院遺跡ではこの陣屋とほぼ同じ時代の堀などが発掘されていますので、これらの堀は服部氏の家臣の屋敷地である可能性が高いと推定されます。



内耳土鍋（地蔵院遺跡）



永楽通宝（地蔵院遺跡） 青磁（地蔵院遺跡）



掘立柱建物跡（中寺遺跡）

# 中近世の 遺跡

## 地蔵院遺跡

約520年前の室町時代後期には武士の館跡が検出されています。郷土資料館の発掘調査ではこの時代の堀が、ふれ愛センターの建設では倉庫や工房などと推定される方形竪穴遺構が多数検出されています。出土遺物は在地産(素焼き)の播鉢や内耳土鍋、カワラケ、瀬戸焼、常滑焼、中国産の古銭や青磁も多数出土しています。約400年前の安土桃山時代から江戸時代初期にかけては、武士階級の屋敷跡が発掘されています。伝承旗本服部氏屋敷跡の発掘調査によって検出された堀とほぼ同じ時代の遺物が出土していることから、旗本服部氏の家臣の屋敷地であった可能性が高いと推定されます。

## 中寺遺跡

中寺遺跡の発掘調査は、平成10年度に実施され、約450年～400年前の戦国時代の井戸跡が1基、多数の掘立柱建物跡が確認されました。井戸からは板碑や焙烙、掘立柱建物跡の柱穴からは瀬戸美濃焼の天目茶碗や北宋銭(元祐通宝)、その他、在地産内耳土鍋や志戸呂焼も出土しています。柱は角柱が多く一辺13～16cmでした。中寺遺跡は、戦国時代岩付城にあった太田氏や後北条氏の家臣として古文書等にも記されている百間の武将鈴木雅楽助の子孫の屋敷地に近いことから、鈴木雅楽助の館の一部だと推定されます。

## 伝承旗本服部氏陣屋跡

伝承旗本服部氏陣屋跡は、平成12年度に財団法人埼玉県埋蔵文化財発掘調査事業団により実施されています。調査によって陣屋の南側を画すると推定される堀などが検出されています。

服部氏は、安土桃山時代に徳川家康の命令により武蔵国太田庄3千石を封じられ、百間の地に陣屋を構えたのが始まりです。その後、江戸時代初期の元和5年、関所番として静岡県今切に配置替えとなり百間の地を離れました。

陣屋の縄張りは、この付近の明治時代の地籍図(地図)からある程度推定することができます。細長い区画は堀や土塁を表しますので、堀や土塁に囲まれた2つ曲輪からなる陣屋であったようです。



カワラケ



天目茶碗



在地産播鉢



堀



瀬戸産卸皿



中寺遺跡発掘調査風景



在地産内耳土鍋



志戸呂焼



服部氏陣屋発掘調査風景



服部氏陣屋推定縄張り図

# 宮代町遺跡年表

宮代町の動き	日本・中国の動き
BC 15,000 前原・金原遺跡で石器を使う人々が移り住む	
BC 12,000 前原遺跡でナイフ形石器が作られる	
BC 11,000 逆井・金原遺跡で縄石器文化が伝わる	
BC 10,000 前原遺跡で土器が作られる	
BC 6,000 前原遺跡で集落が営まれる	
BC 5,000 地藏院遺跡などで集落が営まれる 宮代町周辺まで海が広がる	
BC 3,500 道仏北遺跡などで集落が営まれる	
BC 2,000 金原・地藏院遺跡で集落が営まれる	
BC 1,500 西光院で貝塚がつけられる 金原・藤巻根・山崎山・山崎南・前原遺跡などで 集落が営まれ、人口が増加する	
	BC 10,000 土器の使用が始まる 竪穴住居が出現する
	BC 3,000 青森県、三内丸山遺跡で人々の 生活が確認される
	BC 1,000 土偶・土版・石棒など呪術的な 道具がたくさん作られる

AD 0 埼玉に米作りが伝わる	
AD 380 山崎山遺跡で鍛冶工房が造られる	
AD 400 地藏院遺跡で集落が営まれる	
AD 550 山崎北・道仏遺跡で集落が営まれる 姫宮神社古墳群がつけられる	
	AD 57 倭奴国王が中国（後漢）に使いを送り、 金印を受け取る
	AD 239 邪馬台国女王卑弥呼が中国（魏）に使いを 送る
	AD 391 倭が高句麗と戦う
	AD 562 加羅が新羅に滅ぼされる このころ、漢字・儒教・暦などの大陸文 化が 伝わる

AD 1,176 西光院で阿彌陀三尊像がつけられる	AD 794 京都に平安京ができる
AD 1,200 このころ、町内に鎌倉街道が通る	AD 960 宋（北宋）ができる
AD 1,204 源頼朝の墓が荒らされ重宝が盗まれたが、武州洲河 （須賀）の地頭が捕らえて恩賞をもらう	AD 1,192 源頼朝が鎌倉幕府をつくる
AD 1,230 小山朝政、孫小山長村に上須賀郷などの所領を譲る	AD 1,126 宋（北宋）が滅び、宋（南宋）が再興する
AD 1,335 足利尊氏、小山常久丸に武蔵国太田荘を与える	AD 1,279 宋（南宋）が滅ぶ
AD 1,400 鎌倉街道沿いの久米原・須賀に市が立ち町場が形成する	AD 1,333 鎌倉幕府が滅ぶ
AD 1,470 このころ、地藏院遺跡で館がつけられる	AD 1,582 本能寺の変がおこる
AD 1,550 このころ、中寺遺跡で鈴木雅楽助の館が造られる	AD 1,590 豊臣秀吉が全国を統一する
AD 1,586 北条氏房、西光院に寺領を安堵し岩付城の繁栄を祈念 する	AD 1,592 朝鮮を侵略する
AD 1,590 和戸・久米原、北条氏より鷲宮神社社領と認められる	AD 1,600 関ヶ原の戦いが起こる
AD 1,591 徳川家康、西光院に寺領50石を寄進する 旗本服部氏の陣屋や家臣の屋敷が西原地区に造られる	AD 1,644 明が滅び清ができる
AD 1,615 旗本服部氏、百間より今切（静岡県）へ移る	AD 1,603 徳川家康が江戸幕府をつくる
AD 1,618 百間村、須賀村で検地が行われる	AD 1,615 大阪の陣で豊臣氏が滅ぶ

## 展示品リスト

No.	資料名	遺跡名	No.	資料名	遺跡名
1	条痕文土器 (2号住出土)	地蔵院遺跡2次	52	土師器埴 (5号住居)	山崎山遺跡
2	条痕文土器 (19号炉穴)	地蔵院遺跡2次	53	土師器壺 (8号土坑)	山崎山遺跡
3	条痕文土器 (2号炉穴)	地蔵院遺跡2次	54	土師器埴 (8号住居)	山崎山遺跡
4	条痕文土器 (10号炉穴)	地蔵院遺跡2次	55	土師器高坏 (3号住居)	山崎山遺跡
5	条痕文土器 (35号炉穴)	地蔵院遺跡2次	56	土師器甑 (5号住居)	山崎山遺跡
6	加曾利E式土器	地蔵院遺跡1次	57	土師器甕 (8号土坑)	山崎山遺跡
7	加曾利E式土器 (37号炉穴)	地蔵院遺跡1次	58	土師器鉢 (5号住居)	山崎山遺跡
8	加曾利E式土器 (4号住居)	金原前遺跡	59	土師器台付甕 (8号土坑)	山崎山遺跡
9	勝坂式土器 (3号埋甕)	金原前遺跡	60	土師器壺 (鍛冶工房)	山崎山遺跡
10	曾利式土器	地蔵院遺跡1次	61	土師器壺 (8号土坑)	山崎山遺跡
11	曾利式土器	地蔵院遺跡1次	62	土師器壺 (8号土坑)	山崎山遺跡
12	称名寺式土器 (7号住居)	山崎山遺跡	63	土師器坏 (3号住居)	道仏遺跡
13	称名寺式土器 (2号埋甕)	金原遺跡	64	土師器坏	道仏遺跡
14	称名寺式土器 (226号土坑)	金原遺跡	65	土師器甕 (8号住居)	道仏遺跡
15	称名寺式土器 (8号住居)	前原遺跡	66	土師器鉢 (3号住居)	道仏遺跡
16	堀之内式土器 (8号土坑)	金原前遺跡	67	土師器坏 (7号住居)	道仏遺跡
17	堀之内式土器 (1号住居)	逆井遺跡	68	土師器坏	道仏遺跡
18	堀之内式土器 (1号住居)	金原前遺跡	69	須恵器蓋	道仏遺跡
19	堀之内式土器 (6号土坑)	地蔵院遺跡1次	70	土師器坏 (7号住居)	道仏遺跡
20	加曾利E式土器	地蔵院遺跡2次	71	土師器高坏	道仏遺跡
21	加曾利E式土器 (3号住居)	地蔵院遺跡1次	72	土師器甕 (5号住居)	道仏遺跡
22	堀之内式土器	藤曾根遺跡	73	土師器壺	道仏遺跡
23	加曾利B式土器 (5・6号住居)	山崎山遺跡	74	土師器高坏 (3号住居)	道仏遺跡
24	条痕文土器 (5号炉穴)	逆井遺跡	75	土師器坏 (7号住居)	道仏遺跡
25	加曾利E式土器 (2号住居)	金原前遺跡	76	土師器甕	道仏遺跡
26	加曾利E式土器 (2号埋甕)	金原前遺跡	77	土師器甕	道仏遺跡
27	浮島式土器	前原遺跡	78	土師器甕 (7号住居)	道仏遺跡
28	諸磯式土器	前原遺跡	79	ハニワ	姫宮神社遺跡
29	称名寺式土器 (1号埋甕)	金原遺跡	80	管玉・臼玉	山崎山遺跡
30	称名寺式土器 (3号埋甕)	金原遺跡	81	剣形品・有孔円盤	道仏遺跡
31	称名寺式土器 (3号住居)	金原遺跡	82	比企型坏	道仏遺跡
32	称名寺式土器 (8号住居)	前原遺跡	83	紡錘車	道仏遺跡
33	燃糸文土器	逆井遺跡	84	土錘・土玉	道仏遺跡
34	沈線文土器	逆井遺跡	85	内耳土鍋 (4号溝)	地蔵院遺跡4次
35	押型文土器	逆井遺跡	86	内耳土鍋 (30号土坑)	地蔵院遺跡1次
36	石斧	金原遺跡	87	内耳土鍋 (30号土坑)	地蔵院遺跡1次
37	うき	金原遺跡	88	播鉢 (32号土坑)	地蔵院遺跡1次
38	耳飾	地蔵院・逆井・金原遺跡	90	播鉢 (32号土坑)	地蔵院遺跡1次
39	土錘	金原遺跡	91	内耳土鍋	中寺遺跡
40	ふた	金原遺跡	92	焙烙	中寺遺跡
41	土製品	金原遺跡	93	青磁	中寺・地蔵院遺跡
42	ペンダント	山崎南・地蔵院遺跡	94	天目茶碗	地蔵院遺跡
43	ミニチュア土器	金原遺跡	95	瀬戸産縁釉皿	地蔵院遺跡
44	ヤジリ	金原遺跡	96	常滑産甕・播鉢片	地蔵院遺跡
45	細石刃・細石核	逆井遺跡	97	カワラケ	地蔵院遺跡
46	細石刃	金原遺跡	98	瀬戸産卸皿	地蔵院遺跡
47	ナイフ形石器	金原遺跡	99	瀬戸産播鉢	地蔵院遺跡
48	黒浜式土器	道仏北遺跡	100	瀬戸灰釉皿・端反皿	地蔵院遺跡
49	スクレイパー	金原遺跡	101	播鉢	地蔵院遺跡
50	土師器台付甕 (鍛冶工房)	山崎山遺跡	102	内耳土鍋	旗本服部氏屋敷跡
51	土師器埴 (13号土坑)	山崎山遺跡	103	志戸呂産播鉢	中寺遺跡